

事業番号 0036-1

(事業名) 戦略的イノベーション創造プログラム
(エネルギー分野、次世代インフラ分野及び地域資源分野)
(担当部局) 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)

ー公開プロセスでの評価結果ー

<評価結果> 事業内容の一部改善

<取りまとめコメント>

多様な研究テーマに即した柔軟な制度運用が求められる反面、本事業が「投資」であることを十分認識してグローバルな評価視点を持ち、厳しく工程管理を行うことをルール化して事業を推進していくべきである。

<外部有識者の評価>

イ 廃止	一名
ロ 事業全体の抜本的な改善	2名
ハ 事業内容の一部改善	3名
ニ 現状通り	1名

<外部有識者のコメント>

- ・制度の中で適切に問題点・課題を把握し適切にPDCAを行っている。着実に事業を実施し、目に見える成果をあげて頂きたい。
- ・これから出てくる課題を改善しながら強かに推進して頂きたい。
- ・26年度から5年間のSIP課題のうち、例えば、次世代農林水産業は、(1)生産システム、(2)育種植物保護、(3)新機能食品、の3本柱から成り、多数の小課題で構成されているが、(1)(2)(3)の出口を1つに絞ることは現実的に不可能。出口を見据えたビジネス戦略から優先する小課題を可能な限り早くに絞り込んで、大小課題を削って予算を集中し、出口に向けて邁進すべきである。
- ・年度末評価が甘いので、外部評価委員を増やすべきで、仕分け評価者の視点も入れてしかるべきである。
- ・テーマ選定等に関わる人間を研究界以外からも選択すべきでないか。
- ・10件のテーマの差し換え候補を常に持っているべきではないか。

- ・ 10 のテーマには、それぞれ特徴があるのに、一律 5 年実施するのは如何か。
- ・ テーマは、国内向け、国外向けがある。それぞれ出口も違う。その区別が見られない。
- ・ 評価者に外部の者をもっと参加させるべき。会計、投資の有効性判断。
- ・ ガバニングボードにも経営感覚を有する方を招くべき。
- ・ 基本的には適切に運営されているという点に異論はない。
- ・ 5 年で基本的に終了ということであるが、課題の中には延長が必要なものもある。
そうすると「延長」の判定はどのような基準で行われることになるのか、予め、これは設計しておくべきではないか、あるいは「止める仕組み」を入れるべきではないか。
- ・ 各 10 のプログラムの中間目標やアウトカムがバラバラになっているように思われる、
「評価」が全体を規律しているので、この点は重要。
- ・ 中間評価結果の「その他特記事項」への対応をもっとつめて頂きたい。
- ・ 受益者負担を企業に求めることはないのか。
- ・ 年度評価だけではなく、細かいステージ（工程）ごとに、進捗度測定、評価を行うことが必要。（工程管理）
- ・ 他国、他企業の研究開発動向、参画企業、大学の事情等により、撤退することも視野に入れた厳しい評価を行うことが必要。ズルズル続けてしまうことが最大のリスク。
- ・ グローバルスタンダード化とビジネス化を視野に入れる以上、国際技術投資市場に詳しいビジネス専門家（ファンド・マーケティング）の評価を得ること。